

「点検計画表の不備等への対応」に係る確認結果

6/3報告書の記載内容（関係箇所抜粋）

今回の「点検計画表」の妥当性確認作業において不備が判明した過去の点検実績については、「点検計画表」の修正作業を平成22年6月末までに実施する。現在実施中の2号機第16回定期検査及び1号機の次回第29回定期検査においては、修正した点検実績を基に点検を計画する。

今後、「点検計画表」における点検方法、点検頻度等について、機器の安全重要度、劣化要因を考慮し、科学的に、より妥当性の高い内容に継続的に見直していく。〔報告書4.2〕

確認資料

点検計画・計画表見直しワーキング活動報告書（8月末）【ドラフト】
 現行の点検計画・点検計画表のサンプル、見直し版のイメージ
 点検計画・計画表見直し作業【モックアップ】時の問題点抽出シート

点検計画表の継続的見直し（再構築）について

（第3回立入調査時確認事項：平成22年8月6日）

- ・点検計画表の継続的見直しのうち、「点検計画表」をより適切に管理できるものに見直すことについては、点検計画表検討ワーキンググループ（名称は「点検計画・計画表見直しワーキング」に変更予定。以下、ワーキンググループを「WG」と略す。）で検討を行っているとの説明を受けた。
- ・点検計画表検討WGは業務プロセス改善WGのサブグループに位置付けられており、7/9に開催された第2回原子力部門戦略会議準備会において、重要課題「保守管理不備への再発防止対策の確実な実施」に対応するため、既に発電所内で活動をしていた両WGを戦略会議のWGに組み込むことにしたものであることを確認した。
- ・点検計画表検討WGでは、点検計画表を現場で実際に用いる若手所員が専従の中心メンバーとなり、「より現場の実務に即したものとするために点検計画・計画表に記載すべき情報は何か」という視点からフォーマットの検討を行っているとの説明を受けた。
- ・点検計画表検討WGの活動については、9月末までを目処としており、その後WGの検討した方針・手順・工程にそって個々の点検計画・計画表の見直し作業が行われる計画だが、見直し作業を適宜フォローする中で、必要に応じWGの活動を再開する場合もあるとの説明を受けた。

（第4回立入調査時確認事項：平成22年9月15日）

- ・点検計画・計画表見直しワーキングの打合せが7月13日からこれまでに6回開催され、「現場が使いやすい（管理しやすい）点検計画表」への見直しの方向性を決定し、戦略会議で確認されるのを待っている状態との説明を受けた。 【 】

- ・点検計画・計画表の見直し作業についてワーキングとして決定した主な内容は、現状の「点検計画」と「点検計画表」を一体化する。
 予定・実績管理は点検部位ごとではなく、保全タスクごとに行うこととする（現状の「点検計画」をベースに再構築）。
 現状の「点検計画表」はより詳細な作業内容を管理するための「標準工事仕様書」にする。
 定期事業者検査の予定・実績管理は、保全（通常の保守点検）の予定・実績管理とは別項目とする。
 見直し版では至近の点検実績以降の実績、予定を管理する。
 EAM（統合型保全システム）の点検計画管理機能を2号機第17回定期検査の立案時から使用する。 【 】【 】【 】
- ・スケジュールについては、見直し作業の手順を9月末までに決定し、各設備主管課が行う実際の見直し作業は、「点検計画・計画表見直しワーキング活動計画書」で示した計画どおり、10月から開始し、今年度中に2号機の見直し作業を完了させる計画となっていることを確認した。 【 】
- ・現在は、見直しの作業手順決定のためのモックアップを9月初旬から実施しているところとの説明を受けた。 【 】
- ・具体的には、ワーキングで検討した詳細な作業手順により、現状の「点検計画」「点検計画表」を見直し版に変更することができるか、設備主管課に所属するワーキングのメンバーが自分が担当する機器を対象に試行し、問題点の抽出を行うこととしているとの説明を受けた。 【 】【 】
- ・モックアップの結果、これまでに「弁・計器等、数の多い機器の見直し作業が、本手順では効率的ではない」といった問題点が抽出されているが、作業が実施できないといった意見は出ていないとの説明を受けた。 【 】
- ・県・市からは、「実際の点検の現場では、計画した点検の一部だけ実施できないなど、いろいろなことが起こり得るのではないか。設備主管課のメンバー、担当者などからどのような事例があるかの情報を求めて、あらかじめ点検計画・計画表への反映方法等を検討しておくといいいのでは。」という提案を行った。